

トンボ目トンボ科

マイコアカネ

青森県：B

環境庁：該当なし



上：雄、下：雌

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長30～36mmの小さな赤トンボで、胸の黒斑こくはんが細かく複雑です。若い成虫は橙黄色ですが、成熟すると雄の腹部が赤くなります。雌ではまれに赤くなります。また、雌のはねのつけねが黄褐色となっています。北海道から九州にかけて分布します。県内では1960年頃までは各地に普通でしたが、現在は上北郡に多産するだけで、他の地域ではほとんど見られません。低地の池・沼などに生息し、成虫は7月中旬から10月末まで見られます。

トンボ目トンボ科

ミヤマアカネ

青森県：C

環境庁：該当なし



上：雄、下：雌

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長33～37.5mmで、はねの先端近くに赤褐色の帯があり、他のトンボと容易に区別できます。全体が橙褐色ですが、雄は成熟すると赤くなります。北海道から九州にかけて分布します。1970年頃までは県内各地の低山地に普通でしたが、現在はなかなか見られません。生息地でも個体数がいちじるしく減っています。主に丘陵地や低山地の水田や湿原のゆるやかな流れなどに生息しています。成虫は7月中旬から10月末まで見られます。

トンボ目トンボ科

リスアカネ

青森県：C

環境庁：該当なし



雄

奈良岡弘治撮影

奈良岡

体長35.5~41mmのはねの先端が黒い赤トンボです。若い成虫は橙黄色ですが、雄では成熟すると腹部が赤くなります。雌ではまれに赤くなるものがあります。本州・四国・九州に分布しています。1980年頃までは県内各地に見られましたが、現在は生息地、個体数ともにいちじるしく減少しています。平地から丘陵地の池・沼・湿地に生息し、成虫は7月から10月まで見られます。産卵は雌雄が連結し、湿地の上空から草の上にはばらまきます。

トンボ目トンボ科

オオキトンボ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧II類



雌

奈良岡弘治撮影

奈良岡

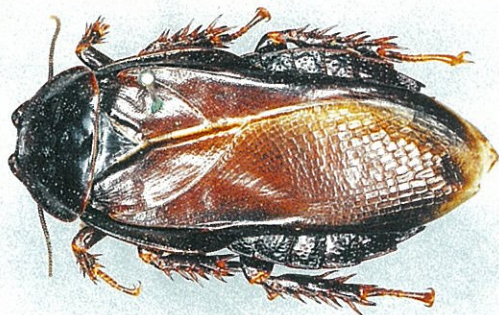
体長46~48mmの大型の赤トンボの仲間ですが、全体が橙黄色をしていて赤くなることはありません。本州・四国・九州に分布しています。県内では1950年頃まで各地に見られたようですが、その後ほとんど見られなくなりました。現在は三沢市・上北郡・北津軽郡・西津軽郡などの限られた地域に発見されているだけです。平地の池や沼に生息しています。成虫は8月から10月末まで見られます。全国的に激減しているトンボです。

ゴキブリ目オオゴキブリ科

オオゴキブリ

青森県：C

環境庁：該当なし



青森県立郷土館所蔵

山内

体長40～43mm。体全体が黒色です。本州、四国、九州、奄美大島、沖縄、国外では台湾に生息します。本県が分布の北限になっています。県内では岩崎村十二湖から記録されています。本種は森林性のゴキブリで屋内には生息しません。産地は大変限られていて、枯木や朽木の中に生息していますが、木の腐り加減や固さ・湿り具合に好みがあり、生息できる朽木は限られています。

ナナフシ目ナナフシ科

ヤスマツトビナナフシ

青森県：C

環境庁：該当なし



山田雅輝撮影

山田

体長42～54mm程度あり、緑色の後ばねの中には桃色の膜質部が折り畳まれています。県内各地に生息し、低山地の古い広葉樹林地で、コナラやミズナラの葉を食べています。卵で冬を越し、幼虫は6月にふ化し8月頃に成虫となります。成虫は晩秋まで毎日少しずつ卵を地面に産み落としします。本県では雄が発見されていないので、単性生殖していると思われる。近年、ナラ類の多く生育する里山が減り、その生息地が狭められています。

ガロアムシ目ガロアムシ科

ガロアムシ

青森県：D
環境庁：該当なし



山田雅輝撮影

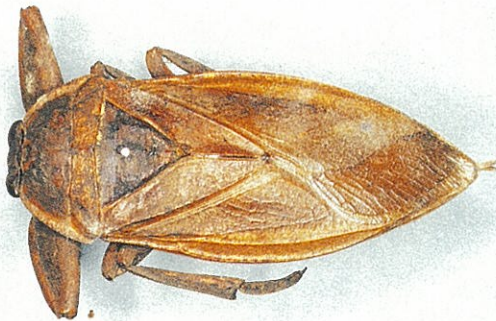
山田

体長20mm位で、はねのない原始的な昆虫です。大鰐町と弘前市で生息が確認されていますが、他にもその幼虫と思われるものが得られています。岩や石ころが多い森林の土中に生活していて、冬は浅いところに、夏は深いところに潜ります。1世代を経過するのに6年前後かかると言われ、県内では11月上旬に成虫が得られています。幼虫も成虫も肉食性で、地中にすむ小さな昆虫やクモなどを食べています。

カメムシ目コオイムシ科

タガメ

青森県：A
環境庁：絶滅危惧II類



青森県立郷土館所蔵

山内

体長48~65mm。体は褐色で、前脚が太い。水が豊富で水草のたくさんある水中に生息し、肉食性で小魚等を捕えて生活しています。国内では、生息している場所もとても限られ、個体数がとても少ない種類です。古くは県内でも広く生息していたと思われていますが、現在はむつ市田名部、黒石市牡丹平、八戸市の標本が残っているだけです。1978年に平賀町石郷、新郷村西越で確認されたから、その後県内では全く採集例はなく、絶滅が心配されています。

コウチュウ目ハンミョウ科

ハンミョウ

青森県：：D

環境庁：該当なし



青森県立郷土館所蔵

山内

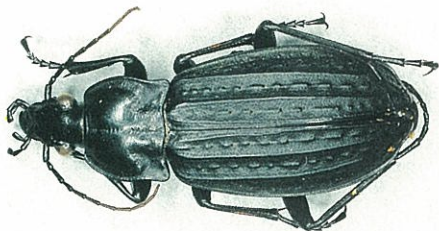
体長20mm内外。体色の美しい種類です。本亜種は本州、四国、九州に分布する日本固有種で、本県が分布の北限にあたります。県内では秋田・岩手の両県の県境付近に分布が集中しており、生息地はかなり限られています。県内からは、八戸市、碓ヶ関村、三戸町、名川町、十和田市、五戸町などの記録があります。本亜種は沢・小川沿いの道でよく見られます。肉食性で、アリやガの幼虫、ミミズ等を捕食します。

コウチュウ目オサムシ科

マークオサムシ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類



青森県立郷土館所蔵

山内

体長25~30mm、体は全体が黒色です。東北地方の泥炭地に生息する日本固有種で、分布は大変限られています。県内での記録は下北半島、三八上北地方、岩木川流域に集中していますが、下北半島は1950年代、三八地方は1970年代以後記録はありません。岩木川流域では個体数は減少していますが、現在も生息しています。本種の減少の原因は、採集者による乱獲もその一つです。

コウチュウ目オサムシ科

シラカミナガチビゴミムシ

青森県：D
環境庁：該当なし



青森県立郷土館所蔵

体長5.90~6.75mm。

本種は後ばねが退化して飛ぶことができないので移動能力はとても低いです。土中の浅層に生息し、環境の変化にとっても敏感な種類です。本種は深浦町天狗峠・一ツ森、鱒ヶ沢町乱岩ノ森・二ツ森、岩崎村青池・白神岳、秋田県藤里町の世界遺産「白神山地」にだけ生息する固有種で、個体数も少ないです。このほかに、ミツメナガチビゴミムシ(大鰐町)、イワキナガチビゴミムシ(岩木山、八甲田山)もDランクに指定されています。

山内

コウチュウ目オサムシ科

オソレヤマミズギワゴミムシ

青森県：D
環境庁：該当なし



山内智撮影

体長4.4~5.5mm。体色は黒色です。本種は本県と福島県で分布が確認されている日本固有種で、硫化水素の臭いのする温水の流れる水辺でのみ確認されています。生育環境が特殊なこともあり分布地はとても限られています。本種は、むつ市恐山(宇曽利山湖湖畔)で採集された標本によって新種として発表された種類で、他に八甲田山からも生息が確認されています。

温泉地で発見されることが多く、環境の悪化による減少が心配されます。

山内

コウチュウ目ゲンゴロウ科

エゾゲンゴロウモドキ

青森県：D

環境庁：該当なし



山内智撮影

山内

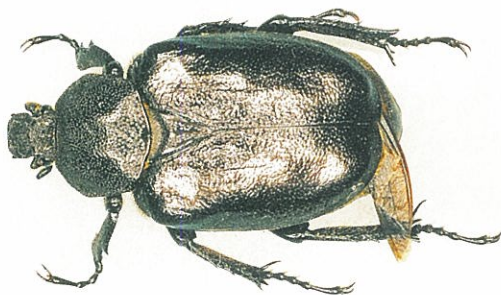
体長31～36mm。大型で雌のはねには深い縦溝が左右10条ずつありますが雄にはなく、雌雄の区別ができます。北海道と東北地方の主に山地にある水がきれいので良好な自然状態が残された湖沼に生息し、その産地は少ないです。本県からは、八戸市、川内町、大鰐町、車力村、白神山地、八甲田山などから記録されています。近年、十二湖では採集者の乱獲によると思われる個体数の減少が心配されます。

コウチュウ目コガネムシ科

オオチャイロハナムグリ

青森県：C

環境庁：準絶滅危惧



青森県立郷土館所蔵

山内

体長27～28mm。体全体が黒褐色です。本州、四国、九州に分布し、本県が分布北限です。原生林が残る自然度の高い地域に生息します。生息地は極めて限られ、貴重な希少種で、樹洞内に生息しています。県内では八甲田山地、津軽半島、白神山地、下北半島に集中しています。白神山地、八甲田山地は生息地が保護されていますが、それ以外の地域は伐採や開発などで生息に適した樹木が少なくなり、近年はあまり発見されていません。

コウチュウ目 コメツキムシ科
チビヒサゴコメツキ

青森県：C
環境庁：該当なし



山内智撮影

山内

体長4.2～5.5mm。体は黒色です。本亜種は、東北地方に分布する高山性の種類で、産地が大変限られる希少種です。本県では岩木山と八甲田山から記録があります。本県から発見された昆虫で、1880年に岩木山山頂付近で発見した2頭の標本によって名前が付けられました。山頂付近の石下からよく発見されます。近年の登山者増加で、環境が悪化し、県では両地域の山頂付近の表土保全対策を行っていますが、生息が危惧されます。

コウチュウ目 コメツキムシ科
キベリマルヒサゴコメツキ

青森県：C
環境庁：該当なし



大平仁夫所蔵

山内

体長9mm内外。体は黒褐色で、幅広く後ばねは退化し痕跡が認められるだけです。北海道と本県に分布しています。生息場所はいずれも海岸線で、特異な種類です。生息地は海岸に限られることから採集記録が少ないです。本県からは、東通村野牛・岩屋、大間町大間平の下北半島の津軽海峡に面した海浜からのみ確認されています。生態等について不明な点が多く、今後の調査研究が望まれます。

コウチュウ目コメツキムシ科

シモヤマヒサゴコメツキ

青森県：C

環境庁：該当なし



大平仁夫所蔵

山内

体長10mm内外。体は少々扁平状で黒色です。山地の砂の下から発見されます。本亜種の属するミヤマヒサゴコメツキは、国内から多くの亜種が知られていて、本亜種は一番北部に位置します。本亜種は、1971年6月に岩崎村白神岳から採集された標本によって新種として発表されました。この他に1991年岩崎村笹内川でも確認されています。

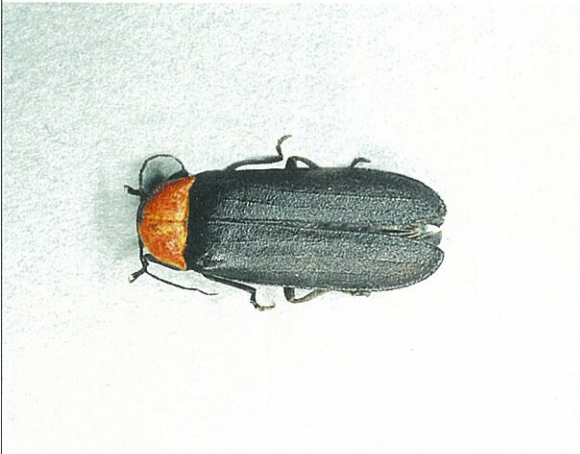
白神山地固有種で、生息地が限定される希少種です。

コウチュウ目ホタル科

ゲンジボタルの1亜種

青森県：C

環境庁：該当なし



青森県立郷土館所蔵

山内

体長12.5~15.8mm。原亜種のゲンジボタルと体形などは同じですが、前胸背中央に黒紋がないことから、八甲田山鏡沼、十和田湖町鶯の標本で、亜種名towadensisと名前がつきました。現在、八甲田山と東通村（県レッドデータブック刊行後確認）から知られており、県外ではいません。希少な種類で、分布状況などまったく不明です。近年、多産地からのゲンジボタルの移入が行われていますが、これらと本亜種との交雑や生息地の奪いあいなどで、本亜種の生存が危惧されます。

コウチュウ目テントウムシ科

ルイヨウマダラテントウ

青森県：LP（十和田湖町鶯）

環境庁：該当なし



安富和男撮影

山内

体長6.5～7.0mm。はねは濃赤褐色で28の黒い紋があります。本種は、十和田湖町鶯で発見され名前がつけられました。本種にはルイヨウボタンを主食とするタイプと、ジャガイモが主食で害虫化したタイプがあります。昆虫の害虫化から基本型である鶯産の個体との比較から多様な研究が行われています。近年、環境変化がないのに鶯の個体数が異常に減少しています。原因は明確ではありませんが、採集者の乱獲も原因の一つと思われる。

コウチュウ目カミキリムシ科

イガブチヒゲハナカミキリ

青森県：D

環境庁：該当なし



工藤周二撮影

今

体長18～25mm。本州・四国・九州に分布していますが、東日本ではまれな種類であり、本県が北限です。

相馬村や大鰐町、弘前市で1980年代以降に記録されており、それ以前の記録はありません。

成虫はノリウツギやリヨウブの花を訪れます。また、幼虫はサワラやトウヒを食樹とすることが知られていますが、本県ではヒバ（ヒノキアスナロ）を食樹とすることが判明しています。